

人間が何気なく捨てたごみが、 自ぜんをよごしたり、 動物を苦しめたりしています。

「ごみを拾う犬もも子」という本を読んで、自分もボランティアでごみを拾おう——と思った普代小5年の深渡柗さん。そして「ちょボラ」をして気付いたこととは…。前年度村読書感想文コンクールの小学校中学年の部で優秀賞を受賞した深渡さんの感想文(小学4年時)を紹介します。

わたしたちの身近にある川がごみだらけでよごれていたとしたら…。あなたは、どうしますか。
この本の主人公犬のもも子は、最初からごみ拾いをする犬だったわけではありませぬ。飼い主であるお寺の住しよくさんが、上流から流れてきたごみを取ろうとして、足をすべらせて、川に落ちてしましました。すると、もも子は流れているごみを口にくわ

ぶくろ、紙おむつ…。これが、もも子と住しよくさんが拾ったごみです。全部、人間が捨てたごみです。「なんて多いんだらう。」「どうして捨てるのだらう。」と思っていました。
プラスチックやビニールのごみは、木や紙のごみとちがって、土にはもどらないと聞いたことがあります。動物がえさとまちがえて食べたり、体からまっけて死んだりすることも聞いたことがあります。

通学路に捨てられているごみを拾うことです。ごみ拾いをしながら帰るのは、はずかしい気持ちでしたが、少しのゆう気を出して始めました。
あらためて見てみると、たくさんのごみが捨てられています。空きカン、タバコ、おかしのおくるみなどです。「ちょボラ」をつづけている時、電気屋のさか下さんに「えらいねえ。」

●小学校中学年の部優秀賞作品

今、わたしができていること

普代小学校4年

深渡 柗さん

えて持つてきました。

す。

住しよくさんが、散歩のときには必ずごみぶくろを持って、川や土手のごみ拾いをするのを見ていたからです。それ以来、もも子は、ごみを見つけては、拾うようになりました。「ごみを拾う犬もも子」のたん生です。
ビン、カン、ペットボトル、プラスチック、ビニールぶくろ、発ぼつスチロール、ひ料

わたしたち人間が何気なく捨てたごみが、自ぜんをよごしたり、動物を苦しめたりしていることをみんなに知ってほしい、考えてほしいと思いました。
わたしは、一年生のころ、校長先生が全校朝会で話してくださった「ちよつとボランティア」「しゃくして」「ちょボラ」をしたことがあります。

と、声をかけられ、ジューズをもらったことがあります。「ちょボラ」をしていておそくなり、お母さんが心配してむかえに来てくれたこともありました。
「ちょボラ」をして通学路がきれいになっていくのは、とてもうれしくて気持ちよいものでした。ごみ拾いを何年もつづけたもも子と住しよくさんも、同じ気持ちだったの

だらうと思っていました。この本を読んで、また「ちょボラ」を試してみようと思います。今、わたしができるところからです。自分の家がきれいならいい、外にどんなごみが落ちていても気にしないという人間には、なりたくありません。みんなで少しのゆう気を出して、足元のごみ拾いから始めてみませんか。
(原文のまま)



古紙や空き缶など資源ごみの

リサイクル団体を募集中!!

役場保健福祉課は、本年度の新事業としてごみの減量と再利用の推進のため、「資源リサイクル活動助成金」12万円を予算化し、古紙など資源ごみのリサイクル活動を行う団体を募集しています。

1 団体に3万円助成

資源リサイクル活動助成金は、活動の立ち上げ分として、1団体につき3万円を助成します。予算は4団体分で12万円ですが、希望する団体があれば、さらに予算化します。

現在は普代婦人会や旭日区自治会、萩牛自治会が同活動の取り組みを予定しています。この事業について役場保健福祉課の野崎貞信課長は「資源ごみのリサイクル運動は、古新聞や雑誌、空き缶やペットボトルなどを回収し、業者

に買い受けてもらうもので、いくらかの収入にもなるので、それぞれ地区の活動費などにするようです。この取り組みはごみの減量化にも欠かせないもので、それには皆さんの協力が必要です。地区や団体など、積極的

な参加をお待ちしています」と呼び掛けています。

美しい村づくりも

私たちの生活は便利になりました。おながが減ったらコンビニでお弁当を買い、のどが渴いたら自動販売機でジュースを買つことが出来ます。しかし、これらの便利だと感じるものには必ず「ごみ」が残ります。空き缶や空のペットボトルなどがそつです。これらは「資源ごみ」として

の袋、雑誌など、さまざまなごみが回収されました。さらに拾いきれなかつたものもあるでしょう。今後心ない人のポイ捨てが続けば、私たちが気付かないうちに確実に自然は汚れていくのです。
表紙の写真のように今年も旭日区をはじめ村内のスクラが満開になりました。もしそこにごみが落ちていたら、どんな気分になるでしょうか。そこにごみがないからこそ、私たちはスクラをきれいにすることができたのではないのでしょうか。それはみんなで協力してきれいな環境をつくらなければならないのでしょうか。



役場では車庫を利用して古新聞や古雑誌を職員が持ち寄り、業者に引き取ってもらいます

申し込み団体に聞きました



古新聞など回収します

普代婦人会長
砂子 ウメさん
(緑区)

テレビや新聞などで環境問題が話題になっているので、ごみの減量化やリサイクルには以前から関心がありました。会長をやらせていただいて、何か福祉的なボランティアができないかと考え、会の収入にもなるので資源リサイクルの活動をしようと思いました。

役場でもごみが増えれば負担金が多くなるというので、会でも相談して古新聞などのリサイクルを始めようと計画しています。

今後は会の皆さんと協力して進めたいと考えています。その際は普代本村の皆さんにも、ぜひ、ご協力をお願いしたいと思っています。この活動をする事で村民の皆さんにもリサイクルの心が芽生え、関心を持っていただければと思っています。

回収、分別し再利用することで貴重な資源となりますが、再利用はおろか収集さえできないのが「ポイ捨て」です。
ポイ捨ては、空き缶やペットボトルに限られません。今回のクリーンアップ大作戦では、たばこの吸い殻、お菓子

きれいなふるさと普代を未来へつなげるためにどうしたらいいか、みんなでもう一度考えてみませんか。

『ごみを拾う犬もも子』 エール出版

第9回「わんマン賞」グランプリ作品。紫波郡紫波町高水寺の中野英明住職とごみを拾う犬もも子とのエピソードが書かれた本。人間の心ないごみのポイ捨てに対し、言葉は話せませんが、川に飛び込んで拾う姿は誰もが心を打たれ、町にポイ捨て禁止条例が制定されるきっかけになったといひます。

